

アジア系就学・留学生の異文化適応に関する検討

飯 尾 牧 子

1. 問題・目的

現在、日本の大学に在籍している留学生数は13万人以上、日本語教育機関に在籍している就学生は3万人以上であり、2008年には「留学生30万人計画」が掲げられ、今後ますます増加すると予測される。在日留学生の、日本社会への適応状態を把握することが重要であると考え、本研究を、異文化適応についての基礎的研究として位置づけた。適応には、Ward が提唱した心理的適応 (Psychological adjustment) と社会文化的適応 (Culturalsocial adjustment) という2つの視点で捉え、それらの規定要因を検討した。心理的適応と社会文化的適応に与える要因として、在日期间、日本語能力、ソーシャルサポート、学校への適応と、さらに、日本ではまだ研究されていない、異文化への適応にあてはめた自己効力感の概念である異文化間社会的自己効力感 (Intercultural social self-efficacy, ISSE; Fan & Mak, 1998) に着目した。また、出身国とホスト国の文化的距離に焦点を当てた。

2. 方法

研究Ⅰでは、就学・留学生を対象に質問紙調査を実施し、回答不備を除く計172名の就学・留学生を分析の対象とし、各種分析を行った。研究Ⅱでは、日本で学ぶアジア系就学・留学生172名と、オーストラリアで学ぶアジア系留学生290名を比較した。

3. 結果と考察

心理的・社会文化的適応への影響および関連を総合的に検討した結果、心理的適応には、在日期间とソーシャルサポートが直接的に影響を及ぼし、社会文化的適応には、学校適応と ISSE が直接的に影響を及ぼしていた。日本語能力は、ソーシャルサポートと学校適応と ISSE に影響を与え、ソーシャルサポートは学校適応を、学校適応は ISSE を促進することも明らかにした。社会文化的適応は心理的適応に影響を与えていた。日本在住の就学・留学生の方が、オーストラリア在住の留学生よりも、低い ISSE と心理的適応を示した。本研究の結果より、第一に、援助は、在日期间にかかわらず全就学・留学生を対象としなければならない。特に、日本語能力は、ソーシャルサポートと学校適応と ISSE に影響を及ぼすため、十分な日本語教育を続けるべきであると考えられる。第二に、ソーシャルサポートを高めるための援助が必要である。ソーシャルサポートを得ることで、学校適応にも心理的適応にもつながると考えられた。そのため、ソーシャルサポートを得る機会を増やすために、就学・留学生と日本人学生の交流の場を増やす必要がある。第三に、ISSE は社会文化的適応を高める要因であるため、ISSE を高めるためのプログラムの実施の必要性が考えられる。第四に、就学・留学生の学校への適応を高めることが、日本社会への適応に直接的につながるため、個人への心理的援助を含む教育機関の設備やサービス体制の充実が重要である。